

15 まち・ひと・しごと創生総合戦略特別委員会における柳下礼子県議の質疑

2015年12月18日

Q．柳下委員

- 1 こちらから提案した、「子育てするなら埼玉県」、「歳をとっても安心」、「非正規雇用から正規雇用を増やす」、「農業をやりたい人への支援」、「保育所や特別養護老人ホームの待機者をなくす」などの意見があまり反映されていないのではないかと。正規雇用化に関する事などは努力の跡が見られるが、事業としての額が記載されていないので、「大胆な発想」と言っても、来年度予算がどうなるのかが肝心である。新年度予算への反映はどうか。予算事業にしないと、絵に描いた餅ではないか。
- 2 義務ではないが、市町村は県の戦略との整合が必要である。市町村と県が協力し進める面もある。未来会議を開催し、県民コメントも実施したが、早く戦略を策定して、交付金としてもらえるものはもらった方が、県民にとっていいのではないかと考えるが、どうか。
- 3 市町村では高齢化が進み年寄りばかりである。子どもの医療費の問題は市町村の要望のトップにある。県が本気になって魅力的な埼玉を創ってほしい。一日も早く交付金がもらえるよう、頑張ってもらいたい。(意見)

A．企画財政部長

- 1 予算に関する面があるのでまず私からお答えする。意見があまり反映されていないのではないかと御指摘があったが、私どもとしては意見・提言の趣旨を最大限意識して、総合戦略案を策定した。目標値が素案からあまり上振れしていないという御指摘については、実際に総合戦略が策定されれば、予算として反映していく必要があるため、全くその

ような見込みのないものを戦略に盛り込むことにはちゅうちょがあるので、御理解いただきたい。

新年度予算については、これから査定が始まって編成されていくので、現時点で確定的なことは言えない。

A．計画調整課長

戦略を早く策定できれば、交付金申請に向けた準備も進められるので、ありがたいと考えている。

Q．柳下委員

共産党はこの創生法案に反対した。なぜなら、まちを壊しておいて、何が創生だという立場もある。市町村は高齢化が進み、高齢者ばかりである。

先ほどできないものもあるとの答弁があったが、子どもの医療費の無料化については、問題は市町村の要望のトップにある。県が本気になって魅力的な埼玉を創ってほしい。

共産党の意見・提言が盛り込まれないから反対するというつもりはないが、みんなで魅力的な埼玉を創っていこうという点では、私が住んでいる所沢も狭山の森があり緑豊かで住みやすいと思っている。

秩父や川越などのすばらしいところは多くある。そのようなところに光を当てて、一日も早く交付金がもらえるよう、頑張ってもらいたい。

A．企画財政部長

子どもの医療費の問題は重要だが、地方財政

上、根深いものがあり、必要性を認めつつ国は国庫での支援をせず、地方財政措置も現時点でされていない。本質的には国がしっかりと対応すべきと考えている。県として限られた財源を、効果を勘案し、施策に投入していく必要がある。こうした背景があるが、全体としては、地方創生をしっかりと進めていきたい。